

## 生活支援相談員活動においてみえてきた住民ニーズの推移

### 【経過】

平成 23 年～ 24 年

- ① 仮設住宅、設備に関する要望
  - ・風除室や庇の設置、水道管の凍結、冷気侵入・結露の防止
  - ・長屋式住宅による生活音トラブル
  - ・家電製品の取り扱い
  - ・大雨、強風による雨漏り、床上浸水、仮設団地への泥の流入など
- ② 交通インフラの復旧 買い物、通院、通学の利便性の確保

平成 24 年後半～

- ① 心身の不調 救急搬送・入院
- ② 退院後の ADL、IADL の低下
- ③ 近隣トラブル

平成 25 年 4 月～

- ① 住宅再建等に伴う仮設住宅からの退去等 …… コミュニティの「不安定化」
- ② 仮設住宅後の生活への不安の増幅 将来の生活設計が描けない
- ③ 室内の衛生状態の悪化など生活の質の低下

### 【現状】

平成 25 年 6 月～ 〈災害公営住宅入居決定以降〉

- ① 災害公営住宅の入居決定者と抽選漏れ・未定の住民との間の「乖離」
  - ・抽選に当たった方と外れた方が交流しなくなった。周囲へ伝えないまま引っ越していく
  - ・引っ越し（災害公営住宅入居）が始まり仮設住宅に残った方々の寂しさの訴え、形つくられてきた「コミュニティ」が変わっていくことへの不安
  - ・家賃負担のない仮設住宅に残りたいという方
- ② 高齢単身世帯、高齢者夫婦世帯における健康の悪化
  - ・意欲の低下、生活の質の低下（衛生状態の悪化）
  - ・行政（保健師等）や担当ケアマネジャーからの見守り訪問要請、住民からの介護保険サービス等の相談の増加
- ③ 情緒不安定な方の周囲への影響
- ④ 災害公営住宅におけるコミュニティの形成